
俺たちのカード！！

FrangBeat

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺たちのカード！！

【Nコード】

N7686Z

【作者名】

Frangbeat

【あらすじ】

「武藤遊戯」「遊城十代」「不動遊星」「九十九遊馬」

のそれぞれと旅をした唯一のデュエリスト、桃里遊我。彼の旅は終わったかに思われた。だがしかし、再び彼の旅が始まる。

Episode：0 ～始まり～（前書き）

この作品ではオリジナルカードが出てきます。

何か案があればメッセをお願いします。

その際、「カード名」「効果」「その他必要事項」を記載してください。

詳しくは活動報告に記載しますのでそちらをご覧ください。

Episode：0（始まり）

桃里遊我。

デュエリスト。

過去に活躍した「武藤遊戯」「遊城十代」「不動遊星」「九十九遊馬」のそれぞれと旅をしてきた唯一のデュエリスト。

「あの旅はすごい楽しかった・・・」

4人との旅を懐かしく、そしてたのしく思っていた。

「また旅がしたいな・・・」

そう思っていた。

<桃里遊我・・・お前にはやるべきことがある・・・>

「何だ?!」

突然に声が聞こえた。

<旅をするのだ・・・さらなる旅を・・・>

「何だ?!誰だ!?!どこにいる?!」

不思議な声が聞こえた。

1話

-それは旅を終えた桃里遊我が家に帰宅した日のことだった。-

「一番遊戯さんとの旅が楽しかったな〜・・・」

カードを1枚取り出し見つめた。

「ブラック・マジシャン」

武藤遊戯のエースカード。

旅の記念にくれた。遊戯はまたブラック・マジシャンを手に入れる
といていた。

そして、

「E・HEROネオス」

遊城十代のエースカード。

「スターダストドラゴン」

不動遊星のエースカード。

「No.39希望皇ホープ」

九十九遊馬のエースカード。

歴世のデュエリストたちのエースカードを遊我は所持していた。

「俺のエースカード・・・BP-ゲイボルグ・・・ありがとな・・・」

桃里遊我のエースカード。

ブラック・パラディン
「BP-ゲイボルグ-」

このカードに何度助けられたらう。

ピンチの時にドロースると必ず来てくれた。

「ありがとな・・・ゲイボルグ・・・」

そんな時・・・

<桃里遊我・・・お前の旅は終わっていない・・・>

「誰だ??!!」

何者かの声が聞こえた。

<また旅を始める・・・そして新たなるデュエリストたちと戦え・・・>

「新たなるデュエリスト??」

<ああ・・・そうだ・・・戦え・・・戦え!!!>

「……………わかった……………」

この瞬間から彼。桃里遊我の新たなる旅が始まるのだった。

2話

謎の声に導かれて旅を始めた桃里遊我。

旅の最初に出会った人は優しい人だった。

「すみません。ここらにデュエリストがいるって聞いたのですが。」

「ああ、それならあそこにいるよ。」

とその現地の人が指をさしたのは学校のような場所だった。

<ここは……>

その建物には「文月学園」と書いてあった。

「文月学園……？学校か……」

ここにデュエリストがいるのかは正直怪しかった。

怪しかったが学園内に入ってみることにした。

すると……

「ターンエンド……！」

という声が聞こえた。

「ほんとにデュエリストが存在するのか……」

校舎内に入り、声が聞こえた場所まで行った。

そこに広がっていたのは、謎の空間でモンスターがバトルしている風景だった。

「なんだこれは!!??」

驚き声を出してしまった。

「だれ?!」

ガラッ

ドアが開き、遊我は見つかってしまった。

「……んでなんでこんなところにいるのよ。」

島田美波というその生徒は遊我に聞いた。

「俺は……ここにデュエリストがいると聞いてきたんだ。」

「デュエリスト? まあいるけど」

「デュエルしたいんだ!! できれば強い奴と!!」

うん………とみんなが考えてる中、

「わかった!! 俺がやる!!」

と声を上げたのは吉井明久という人だった。

「手加減はしないぜ！！見ててね姫路さん。」

「はい。」

「じゃあ、開始しようか。」

「「デュエル！！！！」」

明久VS遊我のデュエルが始まった。

3話（前書き）

ほとんどセリフの章です。

なので、「」の前にしゃべってる人の名前いれておきます。

この話で出てくる「BP」は「ブラックパラディン」と読みます。

3話

桃里遊我：LP4000

吉井明久：LP4000

明：「俺のターン!!!ドロー!!!」

(一体・・・何のデッキを使っているのかわからない・・・責める準備をしておこう・・・)

明：「フィールド魔法、幽獄の時計塔を発動!!!」

遊：「D・HEROか。」

明：「D・HEROドレッドサーヴァントを召喚!!!効果により幽獄の時計塔に時計カウンター1つを乗せる!!!」

遊：「ふむ・・・」

明：「カードを1枚伏せてターンエンド!!!」

遊：「ドロー。」

明：(奴は一体何のデッキだ・・・)

明：「スタンバイフェイズに幽獄の時計塔に時計カウンター1つを乗せる!カウンターは2つ!!!」

遊：「別に大したことではない。魔法カード、おろかな埋葬を発動。」

デッキから、BPゲイボルグを墓地に送る。」

明：「BP?!聞いたことないな・・・」

遊：「手札のBPツインソードを墓地に送り、ダーク・グレフアールを特殊召喚。」

明：「墓地操作系のデッキか・・・」

遊：「ダーク・グレフアールの効果で、手札のデッドアライブを墓地に送り、デッキからBPエンジェルソフィアを墓地に送る。」

明：「墓地がすでに4枚か・・・」

遊：「墓地のBPツインソードとBPエンジェルソフィアを除外し、BPゲイボルグを特殊召喚。」

明：（やばいな・・・負けるかもしれない。）

遊：「BPソフィアジーニアスを召喚。効果により、お前のフィールドにいるD-HEROドレッドサーヴァントを破壊。」

明：「くっ!!!」

遊：「効果で相手に破壊したモンスターのレベル×300ポイントのダメージを与える。」

吉井明久：LP3100

遊：「魔法カード。サイクロンを発動。その伏せカードを破壊する。」

「
明：「くっ……聖なるバリアミラーフォース……」

遊：「墓地のデッド アライブの効果を使い、デッド アライブを除外。除外されているツインソードとエンジェルソフィアを墓地に戻す。再び除外し、BPツインソードを特殊召喚。」

島田美波：「明……」

明：「やばい……このままじゃ……」

明：（手札にはバトルフェーダー……このターンはしのげる……）

遊：「甘い・魔法カード手札抹殺。お互いに手札をすべて捨てて、その枚数分ドロウする。俺はドロウはなし。」

明：（……！！バトルフェーダーが……！！）

遊：「やはりバトルフェーダーがあったか。バトル……！！BPツインソードでダイレクトアタック……！！」

明：「うわぁ……！！！」

吉井明久LP：100

遊：「BPゲイボルグでダイレクトアタック。」

明：「うわぁぁぁぁ……！！！！！」

吉井明久LP：0

遊：「何だ。この程度か。強いんじゃないのか。吉井明久。」

明：「くそっ……負けた……強い……」

姫路：「あなたはいつたい何者なんですか?!」

遊：「桃里遊我。旅をしながらデュエルをしている。」

美波：「旅の目的は??」

遊：「目的……わからない……」

美波：「わからない?!」

そう。桃里遊我は旅の目的を知らずに今、吉井明久とデュエルをしていた。

遊：「目的……」

明：「とりあえず、たのしいデュエルだった。俺もその旅に参加したいな。」

美波：「うちも!」

秀吉：「わしもじゃ。」

姫路：「わ、わたしも……」

土屋：「僕も行くのかな。」

雄二：「なんだ??旅か??俺も行くぞ!」

気が付けばこんなに集まっていた。

遊：「まあいい。大勢の方が早く目的もみつかるだろうしな。」

明：「よし!改めて自己紹介をしよう!俺は吉井明久!」

姫：「私は姫路瑞希。」

美：「うちは島田美波。」

秀：「わしは木下秀吉じゃ。見ての通り男じゃ。」

遊：「え?男だったのか・・・てっきり女の子かと。」

秀：「おぬし初対面であろう・・・初対面の奴にもいわれるのか・・・」

土：「僕は土屋康太。ムツツリーニと呼ばれている。」

雄：「俺は坂本雄二だ。」

遊：「よろしくな。それぞれ使うデッキ教えてくれ。」

明：「俺はさっきので知ってると思うがD・HEROだ。」

姫：「私はアルカナフォース。」

美：「うちはサイキック。」

秀：「わしは忍者じゃ。」

土：「僕はSIN。」

雄：「俺はインフェルニティ。」

ちよつと・・・私を忘れてない・・・？雄二・・・

雄：「げっ！！翔子！！！」

翔：「私は霧島翔子。使用デッキはトークンデッキ。旅についていく。さ、雄二。こつち・・・」

雄：「いや！翔子！やめ！やめろおおく！！！」

こつして文月学園F組の主要面子が旅の仲間になった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7686z/>

俺たちのカード！！

2011年12月30日01時48分発行